

## 第4回鶴岡市総合計画審議会 会議概要

- 日 時 令和6年2月6日（火） 午後9時30分から
- 場 所 グランドエルサン ローズルーム
- 出席者 別紙委員名簿のとおり（委員15名中12名出席）  
出席委員 尾形昌彦委員、平智委員、武田真理子委員、大久保紀子委員、上野雅史委員、工藤久子委員、齋藤祥子委員、酒井忠順委員、山木知也委員、庄司愛恵委員、大橋由明委員、丸山絢子委員、  
欠席委員 上野隆一委員、福原晶子委員、山中大介委員
- 傍聴者 6名
- 協議題等
  - ・ 第2次鶴岡市総合計画後期基本計画（案）について
  - ・ 第2次鶴岡市総合計画後期基本計画の普及・啓発について

### 第2次鶴岡市総合計画後期基本計画（案）について

#### 委員

- ・ 能登半島地震が発生したことから、山形県沖地震に続いて能登半島地震の記載も入れた方がよいと思う。

#### 委員

- ・ 訪問介護、ホームヘルプに関して、事業所を閉鎖することも含めて、かなり採算が悪化しているという話を聞き、ホームヘルパー事業は危機的な状況であると感じた。施策の中にも、した方がよい施策としなければならない施策が当然あると思う。一方で、財政は限られているので、プライオリティをつけてやらなければいけない施策をしっかりと先に進めるということが大切である。限られた財政の中で、市民にとって幸せの部分が大きくなるような施策を提案いただきたいと思う。

#### 委員

- ・ 表面的には東京は給料が高く、一見豊かそうに見えるが、実際に生活してみると、地方の方が豊かで暮らしやすいことが分かってくると思う。自然の豊かさや食物の美味しさなどがあると思うが、そういうところをもう少し具体的に分かるような形でアピールできないかと思う。
- ・ 山形県は3世帯の同居率が非常に高く、少子化の中でも強みになると思う。そういう世帯での連携を深めて、1世帯1世帯が、それぞれは収入が少なくてもみんなで協力して豊かな生活をしていると、若者たちもだんだん地方の良さを分かってくると思うので、そういったところをアピールできると良い。
- ・ 自分のこととしてこの計画を考えるということ、市民の皆さんにどうやって伝えるかとい

うことが一番重要になってくる。計画自体は立派な計画なので、やはり自分のこととして市民の方がどのように捉えて、自分の行動に繋げていくということが重要である。

## 第2次鶴岡市総合計画後期基本計画の普及・啓発について

### 委員

- ・PR版だけを見た場合、自分の興味のあるところや重要だと思うところだけをQRコードで辿っていくと全体のボリューム感が分からないので、そこだけに意見や要望が出ると、鶴岡市全体としてはよろしくないのではないかと思う。

### 委員

- ・自分が以前市役所で働いていた時に、部長・課長クラスの人が必ず地元の挨拶で話す内容があり、それが結果として、地域の人たちと関わる繋がりになった事例があった。地域の会長が部長・課長クラスの人からその内容を聞いて、次に、会長は地元の集まりなどで、地元住民にその内容の話をする。それを何度も繰り返して行政施策に繋げていった。幹部クラスの方のあいさつに総合計画の話を盛り込んで市民に意識してもらおうという方法はゆっくりだが、確実であると思う。
- ・PR版について、表紙がかわいらしいと思うが、1ページめくるかなという不安がある。ショッキングとまでとは言わないが、「えっ」と一瞬思うものがあるのも良いと思う。これは何を書いてあるんだろうというものであっても良いと思う。
- ・最初に計画の中身の説明よりも、鶴岡市の特徴や誇りなど、この計画はこういう位置付けであるということを書いた方が、知らない人にとっては逆に目につくのかなというように感じた。

### 委員

- ・若い方たちは自分が使っている媒体に鶴岡市のことが出てくれば見ることもあると思う。今はInstagramやTikTokが特に見られている。若い方たちが見ているSNSを活用して鶴岡市として発信していくことが大事だと思う。

### 委員

- ・小学校での出前講座等での活用もあると思う。例えばYouTube等でお金のかからない形で、例えば職員が手づくりで、今回こういう「加速化アクション」を作ったというような5分程度の動画を作ると、出前講座やTikTok、Instagram、YouTubeに活用できると思う。印刷物プラスメディアミックス的にSNSを含めて工夫してやっていただくと若者にも伝わると思うので検討いただきたい。

## 委員

- ・コミュニティ関係の研修会や町内会総会などの冒頭2、3分でその動画を流すとかだけでもかなり積極的な発信になると思う。職場で流すのも良いと思う。

## 委員

- ・PR版は大賛成で、今はQRコード読み取るのが主流になっているので、子どもからからスマホを持っている人まで全員が見られるのは良いと思う。
- ・私たちが今作った計画を今度は市民へ自分ごととしてPRしていく必要がある。QRコードで見られるのはほんの一部であり、市民のことを考えて作ったことPRしていただきたいと思う。他委員からもYouTubeや町内会で動画を流すのなどの話もあったのでPRしていただければと思う。

## 委員

- ・概要版とPR版、とても見やすくなっているし、Webに飛ぶというのは若い人たちにはとても画期的なことだと思う。ただ、WebやLINE、YouTubeなどにあまり接する機会のない人はどう情報を得るかというやはり紙面で、紙面はやはり大事であるので、そういう人たちも、取り残さないようにしてほしい。
- ・市民から鶴岡市は「今こういう状況である」、「若い人が少ないので自分のことは自分で頑張らないといけない」ということを自覚してもらわないと、お年寄りが残ったときに、誰か助けてくれるかという助けてもらえないので、自分たちのことは自分たちでしないといけないんだという意識を持ってもらうことが大事だ。これからは、若い人たちへSNSやYoutubeを使ったPRをどんどん進め、使えない人にとっては紙面や集会などで、PRしていくような二本立てでやってほしい。

## 委員

- ・PR版の表紙はソフトでやさしいが、台割案の中身は結構硬いというイメージがある。このPR版では、「こういうことが楽しい」「次の5年間はこういう楽しいことがありますよ」というような括りと、「いや、これは大変だから皆さんで協力して頑張って乗り越えましょう」というような括りで、世代を超えて分かりやすいような編集にぜひしていただきたいと思う。
- ・日本の人口はもう少し減っていく方がいいのではないかと考えており、必要なことは分散だと思う。鶴岡市はまだまだ受け入れられるキャパシティがある地域だと思うので、一番のポイントは里帰り、帰郷である。もう一つは移住だと思う。それを積極的に推し進めるような書き方や表現が大切であると思う。
- ・帰郷の起点になるのは転職だと思う。いかに職を変わりたい人を受け入れられるかということだと思う。職が見つかったから帰ってくるというのは難しいので、帰ってきてから探せる・

試せるような期間を地域が生み出せることが重要であると思う。移住の起点になるのは観光だと思う。まず鶴岡に来てもらって気に入ってもらい、また来ようと思わせられるかどうかということが起点になる。PR版は市民だけではなくて、色々な人を見ることを前提に作るべきだと思う。

## 委員

- ・PR版の表紙について、遊び心がもう少し欲しいと思った。行政的にはそれほど面白いことは多分できないと思うが、例えばどこかに、酒井忠次が「えびすくい」をしていたりなど、それぐらいの遊び心があると良いと思う。
- ・もっと鶴岡らしさを出せるもの、例えば加茂水族館や大寶館、致道館など鶴岡市らしさを追加していただけると良いと思う。
- ・今後の普及推進について、例えば、アプリを作るなど、スマホに入っているとよりアクセスしやすいと思う。若い世代にはやはりそのスマホのアプリなどがあると便利だと思う。
- ・山形県の県民手帳があるが、例えば鶴岡市民手帳を作って、全戸配布は難しいにしても県民手帳のように販売すれば、手帳に記載したデータもすべて持ち歩けるようになる。
- ・YouTube はやはりショートであればあるほど訴求力は高まると思う。真面目過ぎてはいけなとも思う。所々遊び心があると良いと思う。

## 委員

- ・PR版は斬新なアイデアだと思う。ただ、PR版は、概要版を見てもらうきっかけであるので、概要版をどう作るかということが非常に大きなポイントになると思う。
- ・概要版は、単純に概要だけ入れるだけではなく、関連する他のWebのリンクをたくさん貼ると良いと思う。荘内入部400年記念事業のサイトなどのリンクを貼っておいて、「鶴岡の歴史についてもっと知りたい人はここをクリックしてね」という形で作ると良い。食文化であれば、荘内日報さんのサイトに「海の幸山の幸」というページがあるので、そういうサイトに飛ばしたり、もっと知りたい人は、そこから入っていけば色々なところに飛ぶことができ、「概要版に引きずり込んだらもう出られないぞ」というぐらいのものにしてもらうと良いと思う。
- ・子どもたちについても、学校の授業の中で共同学習や探求の学習などで、PR版から概要版に入っていく、その中で話し合いをする形でやってもらうことが必要であると思う。
- ・住民の方々に何か行動を起こしてもらうことに繋げていくためには、地域福祉の四つの「つ」であるが、「集う」「通じる」「繋がる」「紡ぐ」でできているので、「集う」が最初にないと、「通じない」、「繋がらない」ということになる。ワークショップや地域の中での話し合いなどでは、PR版、概要版が必要になると思うので、そのような時に使ったりすれば、今までの行政が計画に沿って施策を打っていくものとは少し違う展開があるのではないかと期待をしている。

## 委員

- ・最初に市民に希望を与える、自信を持たせるということは絶対に1ページ目に出てこないといけないというように思っている。例えば歳をとって足が動かなくなってきたとしても、希望や自信を持っている方なら乗り越えられるかもしれないが、それがいない方は簡単にメンタルに支障が出ることもよくあるので、共有しておきたいと思う。
- ・その上で課題・問題点をしっかり伝え、活力のある人やアイディアマンがいたら、そういった方々に立ち上がっていただくという流れが基本だと思う。
- ・この5年間で、市や市民がやり遂げてきたこと年表の形にし、それに対して後期計画の次の5年間の未来の年表を作っていくと、我々も「こんなこともあったね、あんなこともあったね、こんなことができたんだから次もできるね」と思うかもしれない。市民が希望を持てる、自信になるというような事柄を思い出して、次に繋がることがあると良いと思う。

## 委員

- ・高校生など色々な方の意見を踏まえて今回作っているので、高校生の吹き出しのイラストがあって、「こう思うよ」とか「これに困っているよ」など、代表的な意見が施策に結びついているように見せると、みんなの意見をきちんと聞いていると思うし、自分はどう受けとめるかと自分の中の対話形式になったりすると思う。

## その他・全般

### 委員

- ・青年会議所ではどうやったら鶴岡に戻ってきてくれるかとか、若者がどうしたら鶴岡を好きになってくれるかを考えながら今事業構築をしている。高校生や大学生を巻き込んだ事業をしており、青年会議所としても協力できることはたくさんあると思うので、一緒にやっていると良いと思う。

### 委員

- ・帰郷に関して、転職の話があったが学びや研修も大事だと思っている。企業に結びつけるとき、高等教育機関が鶴岡にはたくさんあるので、学びながら暮らしに慣れて、スキルアップもできて、就職先からも望まれて本当にこういう人材が必要だったという感じで。農業では今一生懸命 SEADS でもやっている。そういう形で人材育成など何かできると良いと思う。

### 委員

- ・人口減少に関して、これから世界は AI や ICT でデジタル化が進んでいくと、仕事につけなくなる人が出てくるという見方もある。日本は高齢化先進国であり、自然に人が減ってある意味、産業構造の人口のバランスの面では非常に優位に立てる局面もあると思う。単純な事務職などはこれから減っていくと思う。しかし、エッセンシャルワーカーやデジタル人材は

ますますこれから必要になってくると思うので、鶴岡市として他の市町村に先駆けてそうした人材を育てていくという視点で、3つの教育機関と連携しながら人材を育成してはどうか。

- 行政に頼ることが、日本の場合少し強過ぎだと感じている。自分でできる部分をきちんとやるという意識改革が非常に重要になってくると思う。今回の総合計画を、そういう自立という部分にうまく使っていけると良いと思う。

# 鶴岡市総合計画審議会 委員名簿

(五十音順、敬称略)

| No.                       | 役職名等                      | 氏名     |
|---------------------------|---------------------------|--------|
| <b>1 市議会議員</b>            |                           |        |
| 1                         | 鶴岡市議会                     | 尾形 昌彦  |
| <b>2 知識経験者</b>            |                           |        |
| 2                         | 山形大学農学部附属やまがたフィールド科学センター長 | 平 智    |
| 3                         | 東北公益文科大学大学院 公益学研究科長       | 武田 真理子 |
| <b>3 関係行政機関の職員及び団体の役員</b> |                           |        |
| 4                         | 出羽商工会 会長                  | 上野 隆一  |
| 5                         | 鶴岡市社会教育委員                 | 大久保 紀子 |
| 6                         | 鶴岡商工会議所 会頭                | 上野 雅史  |
| 7                         | 鶴岡市農業委員会委員                | 工藤 久子  |
| 8                         | 公益社団法人鶴岡青年会議所 常任理事        | 齋藤 祥子  |
| 9                         | 一般社団法人荘内酒井歴史文化振興会 代表理事    | 酒井 忠順  |
| 10                        | 鶴岡地区医師会 会長                | 福原 晶子  |
| 11                        | 鶴岡市社会福祉協議会 会長             | 山木 知也  |
| <b>4 市民の代表者</b>           |                           |        |
| 12                        | 湯田川温泉観光協会理事 合同会社つかさや旅館    | 庄司 愛恵  |
| 13                        | フェルメクテス 代表取締役             | 大橋 由明  |
| 14                        | 元鶴岡地域審議会委員                | 丸山 絢子  |
| 15                        | ヤマガタデザイン 代表取締役            | 山中 大介  |

任期：令和5年4月1日～令和7年3月31日